

平成22年度 共同機構研修会 第3回
京都市保育園連盟共催

平成22年7月30日(金)

協同して遊ぶことと子どもたちの育ち

講師 榎沢 良彦 淑徳大学教授

淑徳大学総合福祉学部教授。研究テーマは、保育の世界を子どもと保育者がどのように生きているのかを明らかにすること。文部科学省の「幼稚園教育要領解説」「幼稚園における道徳性の芽生えを培うための事例集」「幼児期から児童期への教育」の作成協力者、中央教育審議会専門委員を歴任。著書に、「生きられる保育空間」「新しい時代の幼児教育」他。

協同性が育つということは、子どもたちの人間関係が深まっていくことを意味します。

大事なことは、子どもの内側から協同的な活動が展開できるように子ども自身が育っていくということであり、直面した問題状況を自分たちで主体的に考えて展開していくということです。そこには「協同」の姿として考えられる役割分担をするという姿も出てくるだろうと思われます。

また、互いに相手を見捨てず、肯定的に受け止め、応答し合うことも大切です。子どもたちが協同的に生活するにはこのことは大事なことであろうと思います。このような子どもたち同士の関わり合いが展開していくことこそ、子どもたちの人間関係の深まりを意味しますし、協同的な活動の発展をもたらしてくれると思います。

＜参加者のアンケートより＞

「協同性の育ちについて、視点を確かに行うことができました」「子どもたちの人間関係と保育者の援助の結びつきの大切さがわかりました」など協同して遊ぶこととはどのようなことなのかという学びに繋がる感想が多数ありました。

この講演会のビデオ・DVDを貸出しています

平成22年度 共同機構研修会 第4回
京都市保育園連盟共催

平成22年8月25日(水)

運動遊びと子どもの脳の発達

講師 柳澤 秋孝 松本短期大学教授

松本短期大学幼児保育学科教授。専門は幼児運動学。35年間継続研究を行い、10000名以上の幼児期の子どもに運動遊びを直接指導。10年前から大脳活動、特に前頭葉の研究に着手、「運動が子どもの精神的発育に大きな影響を及ぼす」との仮説から保育現場における運動保育援助の効果を調査・研究中。著書に、「生きる力を育む幼児のための柳澤運動プログラム・基本編」「できた！体験が子どもを伸ばす・からだ力(りょく)がつく運動遊び」・ベネッセコーポレーション「子どもちゃれんじ」・進学社「ポピー」教材の運動遊び全ライン監修指導・執筆 他。

現代では、遊びの変化が運動量の減少をまねき、コミュニケーション不足、注意力・抑制力機能の低下につながっています。そうならないためにも、すべての子どもたちが運動することが好きになるプログラムを提供することが重要です。体を動かす楽しさを知り、運動量・コミュニケーション量の増加を図り、前頭葉の活動促進、注意・抑制力機能の向上に努めていくことが喫緊の課題です。

そうすることにより、学級崩壊・キレる・アれる子どもに歯止めがかけられるのではないかと思います。

＜参加者のアンケートより＞

「柳澤先生が考えられた運動プログラムを是非とも体験したいです」「子どもたちと楽しみながら運動していけるようにしたいです」「自園の子どもたちの歩数を計り、実際の状況を知ることから始めようと思います」と、理論を踏まえて実践に移していきたいという感想が多くありました。

この講演会のビデオ・DVDと柳澤運動プログラムのDVDを貸出しています

児童家庭課・保健医療課との合同研修

子どもの育ちと子どもへのまなざし

講師 上原 優子 国立病院機構 榊原病院 医療社会事業専門員

国立病院機構 榊原病院 医療社会事業専門員（精神保健福祉士/社会福祉士）現在、精神科にて、子どもから成人の精神疾患の患者と家族の支援を行っている。専門分野は、行動療法、家族療法、心理社会教育など。著書に「子どもの食・心の交流」、分担執筆「摂食障害の家族心理教育」「子どもの心の訴えと正しい処置」「小児心身症とその関連疾患」等。

人は行動の直後にプラスの経験をするとその行動がしばらく繰り返されることが多くなります。しかし、行動の直後にマイナスの経験が随伴すると、その行動は繰り返されなくなります。行動の直後にくる結果によって次の行動が変わってきます。好ましくない問題行動が見られる時は望ましい行動に変えていけるチャンスです。と、子どもの行動を客観的に見る方法と、かかわり方、問題行動を解決するヒントを具体的に学びました。

<参加者のアンケートより>

「具体例が多く、すぐに使える内容でした」「グループワークもあり、実になりました」「叱るのではなく、望ましい行動がとれた時にほめることを心がけていきたいと思いました」と、明日からの保育で具体的に実践していきたいという感想が多くありました。

この講演会のビデオ・DVDを貸出しています

研修会の紹介

共同機構各団体の研修会の紹介

今回、第20号「かがやき」では、京都市保育園連盟、京都市私立幼稚園協会、京都市保育士会、京都市立幼稚園、京都市営保育所、京都市日本保育協会の各団体から、それぞれの平成22年度の研修会について、ねらいやテーマ、好評だった講師や研修内容などを紹介していただきました。

これにより、各団体の研修会の取り組みを知っていただくとともに、来年度の研修計画の参考にさせていただきたいと思っています。

次ページより紹介を載せています

京都市保育園連盟

京都市保育園連盟では保育を取り巻く様々な課題に対応するため、保育制度や保育内容について、園長や保育士等職員を対象に研修会を活発に実施しています。

現在、保育園では一人ひとりの子どもの生活や発達過程に応じた様々な配慮や指導力が求められ、保育者の専門性や技術の向上、地域の関係機関との連携がますます必要となっています。そこで今年度からの新たな取組みとして、保育士養成校と保育園連盟が連携した「保育実践研修」を実施しています。

「保育実践研修」の概要

- ◇主 催 (社)京都市保育園連盟
- ◇日 程 平成22年9月～平成23年3月
- ◇会 場 保育士養成校・こどもみらい館 他
- ◇対 象 京都市内の認可保育園に在職する保育関係者
- ◇内 容 各保育士養成校から講師を迎えた少人数ゼミ形式・連続4回の実践研修。
今年度は14講座を開講。募集定員は各講座それぞれ20名程度。受講料は無料。受講後はレポート提出をもって修了証を発行する。

京都市私立幼稚園協会

- 1 私立幼稚園の役割と可能性を確認しながら、課題となる内容を深め広げていくことを目指した研究に取り組んでいる。
 - 指導者研究会
設置者・園長または現場の指導的立場にある教諭が、継続的にテーマに添った研究を重ねていっている。内容については、今日的課題など2～3グループに分かれて設定し、調査研究や事例研究を行っている。今までに、「教員の自己評価表」「新任教員の自己評価表」の作成及び調査結果の考察や、「子育て支援の取組」についての現状把握及び検討などの調査研究を行なった。また、教育内容の充実に向けて「人間関係」「食育」などの事例研究や「幼小連携・幼小の接続」についての研究を行っている。アドバイザーとして田中雅道先生にご指導いただいている。
 - 特別支援教育研究会
京私幼協会の当初からの課題である特別支援教育を担う教員及び園の取組の更なる充実に向けて、教員の自己教育の場となる研究会を実施している。永年特別支援教育に携わってこられた先生に研究会顧問としてかかわっていただいている。21年度からは、立命館大学教授の朝野浩先生にご指導いただいている。特別支援教育について、特別に支援を要する子どもの観察、気づき、記録のとり方などを学んだり、グループワークで各自のインシデントを持ち寄って支援のあり方を学んだりして、実践に生かしている。
 - 特別支援教育 設置者・園長研修会
私立幼稚園として特別支援教育をいかに充実させていくか、毎年研修を重ね、私立幼稚園の特別支援教育の振興をはかっている。
- 2 各園及び設置者・園長が私立幼稚園の課題とするところを研修し、自分たちの役割と可能性を広げる。また今までの研究を継続しながら、私立幼稚園の教育活動の充実と教職員全体の資質向上を図るための研修会を実施している。
 - 設置者・園長及び教職員研修大会
全教職員が一堂に会し、様々な分野から講師を招き、資質向上につなげている。最近では、京都市動物園 坂本英房獣医師、旭山動物園 小菅正夫名誉園長、茂山千三郎狂言師などを講師に招いている。
 - 設置者・園長特別研修会
幼稚園教育の今日的課題への理解を深め、解決に向けて取り組んでいくための研修を重ねている。
 - 地区別研修会
市内7地区において、それぞれが年間4～6回の研修計画を立て、各園教職員が参加して、資質向上につなげている。
 - 新規採用教員研修会
新規採用教員を対象に、京都府私立幼稚園連盟が主体となって年間10回の研修会を義務づけているが、そのうち2回を地区別に行っている。協会では京都市地区として、京都市内の教員養成大学と連携をとり、養成大学の教授等を講師に研修会を実施している。
 - 共同機構研修会
 - 管外研修会（海外視察研修会）
- 3 地域子育て相談事業関連の研修講座として、京都府私立幼稚園連盟が幼児教育相談研修講座を10講行っているが、その内の4～5講を京都市私立幼稚園協会との共催とし、市協会が担当して、市協会の「幼児教育相談講座」としている。
 - 幼児教育相談研修講座
子育て支援、カウンセリング、特別支援などの分野で活躍の先生、臨床心理士、小児科医などを講師に迎えて行い、全講座を修了することで、子育て支援の担い手を育成している。

京都市保育士会

京都市保育士会では年間通して多くの研修を開催していますが、中でも毎年秋に大学を会場として開催し多くの参加者を集めているのが大研修会です。今年度も龍谷大学を会場に1200名以上の参加がありました。参加者は、保育指針、子どもの発達、保育制度、食育など多岐にわたる6つの分科会の中から自分の学びたいテーマを選んで参加しました。保育士会員が一堂に会し研修することで、多くの仲間が京都府の子どもの育ちを支えるためがんばっているということを知る機会にもなっています。

各分科会テーマは以下の通りです。

- 第1分科会 河崎道夫さん（三重大学教授）
『子どもが豊かに遊ぶこと その意味と力』
- 第2分科会 新井廣子さん（元保育士）
『今なぜ育児担当制が必要か～乳幼児期におけるていねいな保育とは』
- 第3分科会 大橋喜美子さん（神戸女子大学教授）
『保育実践に生かす保育指導計画』
- 第4分科会 中西新太郎さん（横浜市立大学教授）
『生きづらさの時代の子育てと保育制度のゆくえ』
- 第5分科会 平沼博将さん（大阪電気通信大学）
『子どもの発達や障害を見る目を豊かに』
- 第6分科会 吉田隆子さん（NPO法人こどもの森理事長）
『ワクワク体験から食への好奇心を育てよう～食育から広がる保育』

京都市立幼稚園

○ 総合教育センターで実施

- ・毎年研修のアンケート結果から見直しをしている。
- ・年次別研修
 - *採用1年目・若年（2年目～5年目）・中堅（6年目～11年目）・保育技術専門研修（12年目以上）
これについては、保育を伴う研修が主であるため、好評である。
保育者の保育を見て実際の子どもの姿から、指導案の作成及び環境構成、教師の援助を具体的に協議できるので役に立つという意見が多い。
 - *その他エピソード研修等の理論研修も実施している。採用1年目研修では、小学校の授業を見たり、総合育成支援教育や人権教育の講義を聞いたり等の研修もあり、また、合同で宿泊研修も行っている。
- ・課題別研修
 - *幼稚園教育実践講座
文部科学省の幼児教育理解推進事業の一環として実施。主題に沿った事例発表と協議を行う。市営保育所の保育士も参加。交流の場となっている。
 - *幼小連携講座
生活科・総合的学習研究会及び京都市立幼稚園教育研究会との共催で実施。年間2回互いの授業、保育を参観して協議。幼小の連携強化が求められている昨今、必要な研修会だと思っている。
 - *園長・教頭研修会
喫緊の課題に対応して管理職の資質向上を目的に行う。今年度は子育て支援及びほっこり子育てひろばのワークショップを実施。
 - *常勤・非常勤講師研修会
年間2回、保育を参観して研修。担任の保育と総合育成支援加配との連携に重点を置いた保育を実施。
 - *研究主任研修会
22年度から新設。京都市立幼稚園としては、研究を通して各園の特色を打ち出し、モデル園となりたい思いがある。次代を担う若手の研究主任としての力量を高めたい。
 - *その他幼稚園教育研究会の定例部会、こども展研究集会、こどもみらい館共同機構研修会、ふしぎ体験講座も研修プログラムに記載し、研修に位置付けている。
- ・その他 管理職研修など学校と合同の職務別研修もあり。

京都市営保育所

京都市営保育所職員研修計画

- ・ねらい 「一人ひとりを主体として受け止め、主体としての心を育てる保育」と「人に対する信頼感や人の気持ちを尊重する心を育てる保育」の実践と、保護者や地域の子育て支援を推進するため、把握・分析・処理する力と専門的な知識や技術を身に付ける。
- ・研修体系 保育課研修（階層別研修、分野別研修他）、職場研修、自主研修等
- ・階層別研修の取組

階層分類	新採（1年目）	初任（3年目）	中堅Ⅰ（8年目）	中堅Ⅱ（15年目）	中堅Ⅲ（20年目）
子どもの人権と子ども理解	一人ひとりを大切に する保育	一人ひとりを大切に する保育	一人ひとりを大切に する保育	一人ひとりを大切に する保育	一人ひとりを大切に する保育
子どもの健康と安全	保育所給食乳幼児 の健康と安全につ いて	乳幼児の健康支援 について	食育について	事故事例から学ぶ	事故事例からの課 題解決について
保育の計画と指導 計画に基づく保育 実践	保育所の保育の計 画を理解する	記録の意義と必要 性について理解す る	記録の生かし方につ いて（情報発信 等）	自己評価について	自己評価について
保護者支援	保育所における保 護者支援の基本	入所児童の保護者 支援	保育所における地 域の子育て支援	苦情解決について	苦情解決について
制度、政策の理解	社会の動向の理 解、保育所保育指 針の理解	社会の動向の理解	社会の動向の理解	社会の動向の理解	社会の動向の理解

・主な取組内容

一人ひとりを主体として受け止める養護の働きと、主体としての心を育てる教育の働きの保育について、鯨岡担当部長の講義を受けエピソード記述を描きます。そのエピソードを保育所で討議したり、担当部長の講評を受けて保育の見直しを行っています。研修を行うことで保育を振り返り、継続した保育実践に繋げることができます。その他に、保健衛生、食育、指導計画、子育て支援、保育制度などの項目を入れ、幅広く研修を行っています。

・絵本、造形、障害児などの分野別研修も行い、保育士の質の向上を図っています。

京都市日本保育協会

京都市日本保育協会では、京都市との共催で研修会を行っています。

日程は、平成22年11月4日(木)～12月2日(木) 会場はコープ・イン・京都<11月16日(火)午後部のみ 京(みやこ)あんしんこども館>で開催中です。対象は、京都市内公私全園保育関係者です。

《研修概要》

月 日	時 間 帯	講 師 名	研 修 科 目
11月 4日(木)	午 前	花田睦子さん(絵本研究家)	乳児保育と絵本
11月 4日(木)	午 後	伴亜紀さん(栄養士)	乳児の食生活について
11月16日(火)	午 前	有井悦子さん(小児科医)	乳児の病気と保健
11月16日(火)	午 後	澤田淳さん (京都府立医科大学名誉教授小児科) (京都第二赤十字病院名誉院長) (京あんしんこども館 センター長)	乳児の安全管理と事故予防 京(みやこ)あんしんこども館
11月18日(木)	午 前	吉田正幸さん(有限会社 遊育 代表取締役)	乳児保育と新保育制度
11月18日(木)	午 後	岩城敏之さん (尚キッズいわき代表 日本子どもの発達研究所講師)	乳児のあそびと環境
11月22日(月)	午 前	今井和子さん(立教女学院大学 名誉教授)	乳児保育の意義と役割・実践Ⅰ
11月22日(月)	午 後	今井和子さん(立教女学院大学 名誉教授)	乳児保育の意義と役割・実践Ⅱ
11月30日(火)	午 前	安藤和彦さん(京都文教短期大学教授)	家庭支援・関係機関との連携
11月30日(火)	午 後	田中真介さん(京都大学准教授)	乳児期における発達保障
12月 2日(木)	午 前	民秋言さん(白梅学園大学大学院 名誉教授)	保育所保育指針における乳児保育
12月 2日(木)	午 後	民秋言さん(白梅学園大学大学院 名誉教授)	保育の計画の作成と展開

第11回「みらいっこまつり」

わくわく ほっこり み～んなえがお

日時：12月17日（金）、18日（土）
場所：こどもみらい館



京都市保育園連盟「エアマットであそぼう」、京都市私立幼稚園協会「子どもわくわくコンサート」、京都市保育士会「あそびのおもちゃ箱」、京都市営保育所長会「赤ちゃんふれあいコーナー」、京都市立幼稚園長会「クリスマスの飾りを作ろう」、地域の自治連合会による「お茶席」をはじめ、人形劇やマジック、ハンドベル、オルゴール、コンサートなどたくさんのイベントが予定されています。また、缶バッチ作りや、おもちゃの病院などもあります。

保育園（所）・幼稚園の保護者の方にご紹介いただくとともに、先生方も、ぜひとも一度遊びに来てください。

なお、16日（木）、17日（金）、18日（土）の3日間は、みらいっこまつりとその準備のため、開館時間が午前9時から午後5時までとなっております。ご注意ください。

Information

インフォメーション

研究プロジェクト近況報告

◇子育て支援研究プロジェクト

現在、プロジェクトメンバーを募集中です。保育園（所）・幼稚園を核とした地域の子育て支援のあるべき姿について一緒に考察していきます。奮ってご応募ください。

◇保幼小連携研究プロジェクト

御池保育所・中京もえぎ幼稚園・御所南小学校グループと、錦林保育所・コドモのイエ幼稚園・第三錦林小学校グループの2グループ共、研究会を重ねながら、話し合いや交流保育を取り組んでいます。

各グループごとに課題を抽出し、その中からテーマを決定し、研究へと繋げてきています。小学校のメンバーにも入っていただき、保幼小の違いや、連携について、一緒に考察しています。

編集後記

これから保育士や幼稚園教諭になっていく学生に向けた「保育者養成講座」では、市営保育所・民営保育園・市立幼稚園・私立幼稚園の先生方に講師をしていただき、ありがとうございました。今年度から新たに加わった「絵本・パネルシアター等の紹介」も、現場の先生だからこその視点や子どもの様子など、「大学では学べないことが得られた」とたいへん好評でした。魅力的な先生ばかりで、「あんな先生になりたい」「やっぱり保育者を目指したい」と学生さんの気持ちも高まっています。

事業課事務局

子どもを育む喜びを感じ、
親も育ち学べる取組を
進めます。
（「子どもを共に育む
京都市民憲章」より）



発行日 平成22年11月21日
発行者 京都市子育て支援総合センターこどもみらい館
〒604-0883 中京区間之町通竹屋町下る
Tel (075)254-5001 Fax(075)212-9909
URL <http://www.kodonomirai.or.jp>